

第2回 検討会意見とそれに対する見解

資料1

	委員名	分野	意見の内容	見 解
1	中野委員	スマート	・スマートシティ構想で、徳島東ICと津田ICを活用する循環バスの新規路線の導入といった、公共交通機関の利用を考えてはどうか。	・徳島市から、現在、徳島市地域公共交通総合連携計画に基づき、段階的に路線再編を行った上で、民間バス事業者に運行委託を行っているところであり、徳島東ICと津田ICを活用する循環バス新規路線の導入については、乗客のシートベルト着用や着席の義務づけ等、道路交通法規上の課題があることから、この民間委託に伴う路線の見直しにおいて、末広大橋の活用など、津田地区と末広に建設予定の大型ショッピングモールや市民病院とのアクセス等、需要予測も含め調査・研究したいとの見解を頂いている。
2	大谷委員	交流	・にぎわい拠点の整備に、地元の海産物を生かした産直市とあるが、地元漁協からのニーズがあるのか。	・地元海産物を活かした産直市をはじめとするにぎわい拠点の整備については、今後の民間活力の導入に向けた検討の中で、需要調査等を精緻に行う。
3	大谷委員	産業	・既存企業（木材関連）の加工・流通拠点整備とあるが、具体的なニーズがあるのか。	・木材加工企業や流通企業等、既存企業の活性化を図るため、農林水産部と密接に連携し、平成27年度から取り組んでいる「新次元林業プロジェクト」に即して、木材団地の加工体制の強化や、流通機能の拡大を推進する。
4	大谷委員	産業	・企業誘致に関して、徳島市内に住工混在を解消したいというニーズがあるのか。	・企業立地意向調査の結果、津田地区における新たな企業用地への立地に対し、津田木材団地立地企業以外の徳島市内製造業者3社から興味がある、また18社から検討の余地があるとの回答をいただいている。このうち、4社から全ての施設を移転する、また4社から一部の施設を移転するとの回答をいただいている。
5	大谷委員	意向調査	・企業立地意向調査の配布先について、配送センターを有しているような小売店も対象にしてはどうか。	・企業立地意向調査にあたっては、配送センターを有する卸売企業等も対象としている。
6	大谷委員	意向調査	・企業立地意向調査の設問について、希望分譲価格以外に、リース価格も追加してはどうか。	・水面貯木場の埋立については、分譲を前提とした臨海土地造成事業により整備することとしている。

	委員名	分野	意見の内容	見 解
7	村上委員	基本理念	・基本理念に関して、津田地区と四国の玄関口や陸海空の結節点というイメージが結びつかない。	・津田地区は、徳島港区では最も大きな水深10mの岸壁を有し、新たに四国横断自動車道のインターチェンジも整備することとなっている。また、平成27年3月に徳島阿波おどり空港と四国横断自動車道が県道徳島空港線と松茂スマートインターチェンジの整備により結ばれ、津田地区と空港は定時制を持って、短時間で移動可能となることから、「四国の玄関口」の機能を有する「新たな陸海空の結節点」となるものと考えている。
8	村上委員	基本理念	・計画について、津田だけでなくマリニピア沖洲との関係を踏まえた上で、方向性を検討してはどうか。	・津田地区とマリニピア沖洲は、無料の高速道路で結ばれることから、徳島港区の「産業拠点」や「交流拠点」の中核を担う地域として、一体的に活用、活性化を図りたいと考えている。
9	端村委員	産業	・第1水面貯木場を埋め立てて、クルーズ船の誘致等を含めた岸壁の整備を計画に入れてはどうか。	・津田地区の岸壁は、木材の輸出入に利用することとしており、クルーズ客船については、現在寄港している赤石地区や本港、金磯地区とともに、新たに沖洲（外）地区の既存岸壁を有効活用することにより、寄港の常用化を図りたいと考えている。
10	徳増委員	強靱化	・水面貯木場の埋立造成を周辺より2m程度嵩上げるとしているが、既存企業用地は低いままなのか。将来的にどう対応するのか。	・既存企業用地については、排水対策や海岸保全施設の段階的な整備を図ることとしている。今後、将来的な対応策について研究したいと考えている。
11	徳増委員	スマート	・スマートな地域社会について、木材団地という特色を活かし、バイオマス発電に力を入れてはどうか。	・活性化計画において、太陽光発電をはじめとする自然エネルギー導入の促進を位置づけており、この自然エネルギーには、バイオマス発電も含んでいる。
12	徳増委員	産業	・津田木材団地の既存企業が、新しく嵩上げた埋立地へ移転を考える可能性があり、立地の優遇措置等、支援策を考えてはどうか。	・既存企業がBCP対策として嵩上げた埋立地へ移転する場合、県の中小企業者向け融資制度メニュー「地震防災対策資金」の活用が可能である。また、県の企業立地補助制度は移転増設も対象としており、雇用増等の条件を満たせば移転にも活用可能である。企業ニーズに対応した補助制度の見直しを毎年行っており、既存企業のニーズを注視したいと考えている。 さらに、企業誘致に向けた、サポート体制を構築する。

	委員名	分野	意見の内容	見 解
13	西島委員	交流	・ ボートパークの整備について、民間活力の導入には、事業規模や管理運営の形態等を十分に検討することが必要であり、放置艇以外の一般プレジャーボートをどの程度位置づけるかの検討が重要ではないか。 ・ 小型係留施設による収入をどの程度見込み、どのような形で民間に管理運営させるのかを検討すべき。 ・ ボートパークの整備やにぎわい空間の創出を図るためには、水域はもとより一定規模以上の陸域の確保が必要ではないか。	・ ボートパークの整備にあたっては、民間活力の導入に向け、確保すべき陸域を含む事業規模や管理運営の形態等を検討したいと考えている。
14	西島委員	交流	・ 放置艇を、新しいボートパークへどのように誘導するか検討しておくべき。	・ 平成２７年１２月に策定した徳島県放置艇削減計画に基づき、係留保管場所の確保に併せ、放置等禁止区域などの指定により罰則の適用等規制措置を講じて、放置艇の誘導を行っていききたい。
15	多田委員	強靱化	・ 新たな埋立地が２ｍ程度上がることから、排水、浸水対策は十分にとってもらいたい。	・ 活性化計画において、内水被害軽減のための排水対策と親水空間の活用を位置づけている。今後の整備に向けた検討の中で、具体的な対策方法を地元関係者に対し説明したいと考えている。
16	多田委員	交流	・ 第１水面貯木場を、一部でも埋め立てて、ボートパークの陸上保管場所や駐車場に利用してはどうか。	・ 活性化計画においては、静穏度の確保や岸壁利用船舶との錯綜を避けるため、第１水面貯木場にボートパークの整備を位置づけている。
17	島田委員	交流	・ 第１水面貯木場を、一部でも埋め立てて、駐車場や釣り堀公園として利用してはどうか。	
18	島田委員	産業交流	・ 第２、第３水面貯木場において、緑地の整備や新たな企業誘致などが位置づけられているが、具体的な配置等は決めているのか。	・ 活性化計画において、流通企業や町工場による「産業拠点」と産直市をはじめとしたにぎわい拠点や緑地等による「交流拠点」を位置づけている。その配置や規模については、需要調査等を精緻に行い、検討したいと考えている。
19	島田委員	交流	・ 野球やサッカーについて、緑地の広場では本格的にできないと思うので、一つの施設でそれぞれを切り替えて使用できる様な整備ができないか。	・ 活性化計画において、緑地を位置づけており、この中で広場の整備を行いたいと考えている。本格的な野球やサッカーに利用できる施設としては、鳴門総合運動公園等、既存施設を有効に活用したいと考えている。

	委員名	分野	意見の内容	見 解
20	島田委員	交通	・アクセス道路の整備について、県道津田インター線以外に、河川沿いに道路を整備してはどうか。	・アクセス道路は、メインとなる県道津田インター線の強化が重要であると考えており、活性化計画において、渋滞対策のための交差点改良や歩行者等の安全性を向上させる施設整備を位置づけている。
21	島田委員	スマート	・水素ステーションとかＥＶスタンドは、多くの人が利用できるように、高速道路のＩＣ近くにＳＡ的なものを作って、そこに整備してはどうか。	・活性化計画において、水素ステーションやＥＶスタンドは、にぎわい拠点に整備することを位置づけている。
22	山中会長	スマート	・津田ＩＣは現況地盤よりかなり高い位置に整備されるため、ＳＡ的なものを設計する場合には、坂路部等アクセス性を考慮するべき。	・高速道路、緑地、にぎわい施設を活用した津波避難場所については、アクセス性を十分に考慮して設計する。
23	山中会長	産業	・都市計画について、津波災害警戒区域の指定による市街化調整区域の緩和も議論されており、市内の立地企業の選択肢が増えていることから、津田に誘致するためにどう魅力を伝えるか戦略が必要。	・津田地区への企業誘致に際して、新たな陸海空の結節点が誕生することをはじめとする当地区の魅力を様々なネットワークやツールを活用し、戦略的に情報発信したいと考えている。 また、企業誘致に向けた、サポート体制を構築する。
24	横山委員	強靱化	・埋立造成を周辺より２ｍ程度嵩上げとのことだが、一部でもＬ２津波に対応した避難場所にできないか。	・活性化計画において、高速道路、緑地、にぎわい施設を活用したＬ２津波に対応した津波避難場所の整備を位置づけている。